

クロツラヘラサギ 英:Black-faced Spoonbill 学:Platalea minor

1. 分類と形態

分類: コウノトリ目 トキ科
 全長: 688-777mm 翼長: 362mm (346-371)
 尾長: 109mm (101-116) 露出嘴峰長: 183mm (163-207)
 ふ蹠長: 139mm (129-152) 体重: 1660g (1470-1900)
 ※全長は榎本(1941), ほかは香港で捕獲した13個体のデータによる

羽色: 全身白色で嘴と嘴から目にかけての部分と足が黒色. 首, 嘴, 足が長い. 嘴が「しゃもじ」のような形



写真1: クロツラヘラサギの若鳥(三田長久氏撮影). くちばしがつるつしている.

をしているのが最大の特徴である. 成鳥のくちばしは黒く, 皺があるが, 若鳥は皺がなく肉色を帯びており, 翼の先に黒色部がある. 繁殖期の成鳥は頭部の冠状の羽が長くのびており, その部分と胸が黄色身を帯びる.

2. 分布と生息環境

分布: クロツラヘラサギは, アジア東部の極めて狭い範囲にのみ分布している種である. 繁殖地はおもに南北朝鮮国境付近西部沿岸にある無人島で, 北朝鮮西海岸から中国遼東半島にかけての無人島でも繁殖している(Chong & Pak 1999, Ueta et al. 2002). おもな越冬地は台湾, 香港, 日本(九州から南西諸島), マカオ, ベトナム北部で, 韓国済州島, 中国東海岸, タイでも越冬している(Yu 2005).

生息環境: 繁殖地は無人島で, ほかの海鳥にまじって繁殖しており, 10km以上離れた本土の沿岸部の干潟や河口まで移動して, 魚, 甲殻類などの水生生物を採食する(鄭ほか 1996). 韓国では水田でも頻繁に採食している. 越冬地では干潟, 河川の河口部や池, 養魚場などの浅い水域に生息しており, 繁殖期とは異なって, 行動圏は非常に狭いものが多い.

3. 生活史

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
 越冬 渡り 繁殖 渡り 越冬

繁殖システム:

一夫一妻で, 抱卵は雌雄交代で行ない, ヒナの世話も雌雄で行なう.

巣:

巣は無人島の岩棚や地上に枯れ枝を組み合わせてつくられる. アオサギなど他種の巣を利用することもある.

卵: 一腹卵数は2~3卵である.

抱卵・育雛期間:

抱卵期間は26日程度である. 育雛期間は約40日である.

繁殖開始年齢:

飼育下での観察では, 成長するのに時間がかかり, 成鳥の羽色になるまでに5~6年かかる. 雌では3歳で繁殖可能になり, 雄は4~5歳から繁殖可能になる(Chong et al. 1999).

渡り:

台湾や香港で越冬する個体は, 大陸沿いに北上し, 朝鮮半島へと渡る. 沖縄で越冬している個体は九州経由で朝鮮半島に向かうことが, 2003年度に環境省によって行なわれた調査でわかってきた.

4. 食性, その他

採食方法は嘴をあけて水の中に突っ込み, 頭を左右にふりながら前進して, 嘴のあいだにはいつてきた水生生物をくわえ取るというもので, 水が濁っていて獲物が見えないような環境でも採食することができる反面, 食物となる水生生物の密度が非常に高い場所でないとうまく採食することができない.

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

●増えている怠惰な若者?

人工衛星をつかった渡り追跡調査から, 越冬地から繁殖地への渡りの時期は若鳥よりも成鳥の方が早く, 中継地での休息も短く早く, 繁殖地へ到着し, 繁殖を開始することがわかってきました(Ueta et al. 2002, Ueta & Higuchi 2002). 繁殖を行なわない若鳥の中には, 渡りを行なわずに越冬地で夏をすごしたり, 渡りの途中の中継地で夏を過ごしたりするものもいます. 日本では数年前までは越冬する個体は見られませんでした, 2003年夏からは越冬する若鳥が見られるようになってきています. 越冬個体数が増えた結果, このようなことが生じてきたのか, それとも繁殖地が手狭になってきて若鳥がいる場所がないのか理由は今のところわかっていません.



写真2: 衛星用送信機をつけられたクロツラヘラサギの成鳥

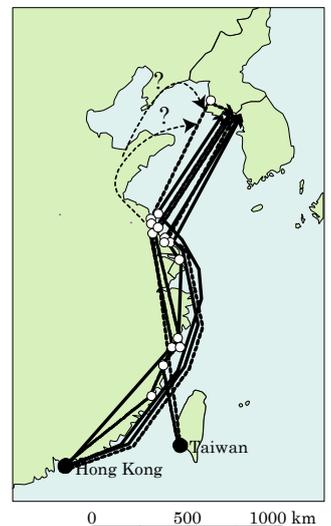


図1: 衛星追跡によるクロツラヘラサギの渡り経路

●世界の個体数

1994年より、毎年1月中旬に、世界で見つかっている越冬地全てで一斉に個体数調査が行なわれています(Yu 2005)。その結果では、1994年の351羽から2005年の1475羽へと記録個体数は急激に増加しています。しかし、この増加のすべてが「個体数」の増加ではなく、見つかっていない越冬地が開発などにより消失し、そこで越冬していた個体が、既知の越冬地に移動してきた部分も大きいと考えられています。

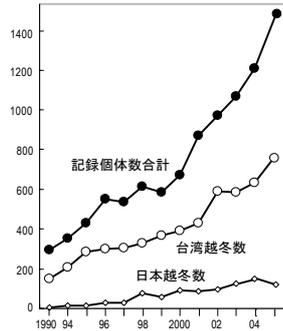


図2: クロツラヘラサギの個体数の変遷。急激に記録個体数が増加しているが、必ずしも個体数の増加を示していないのではないかと考えられている

同様の個体数の増加は、クロツラヘラサギと分布状況が似ていて、同じように干潟に依存して越冬しているズグロカモメやツクシガモの九州の越冬群でもみられています。

今はクロツラヘラサギの越冬地は見つかっていないのですが、存在する可能性のある中国東海岸を2003年2月に環境省の委託調査で訪れる機会がありました。ところが、地図上は干潟になっている場所が、実際には埋め立てられて消滅していたり、養貝場になっていたりと、クロツラヘラサギが利用できない環境へと改変されていました。衛星画像を見てみると、干潟の変化は明白です(図;長谷川2005)。このような変化によって、越冬できなくなったクロツラヘラサギが一部の越冬地に集中したのかもしれない。

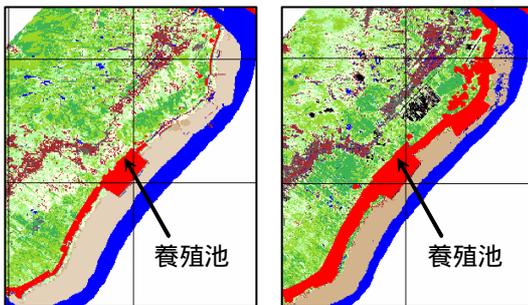


図3. 中国温州湾の養殖池の変化。干潟が多く残されているここでも干潟が養殖池にかわっている(長谷川2005)。

●大量死の危険

世界最大のクロツラヘラサギの越冬地である台湾台南県では、2005年には全体の半数以上の757羽が越冬していました。ここで2002年12月から翌1月にかけてボツリヌス菌による中毒で73羽ものクロツラヘラサギが死亡しました。クロツラヘラサギの大量死はそのときが初めてでしたが、それ以前にもカモ類の大量死は何度か起きていたとのことで、今後、再びクロツラヘラサギの大量死が起きる可能性は否定できません。大量死が起きたときの救護策を立てることも必要ですが、これ以上越冬個体の集中化が進まないようにすることが、この危険を避けるためには必要でしょう。見つかっているクロツラヘラサギの越冬地を保全するとともに、開発が急激に進んでいる中国東海岸で調査を行な

い、クロツラヘラサギの越冬地を明らかにして、そこを保全していくことが重要です。この地域は、クロツラヘラサギやその他の水鳥の渡りの中継地としても利用されている場所なので、越冬が確認されなくても、良好な干潟を保全する意味は大きいと考えられます。

●必要な保護のための連携

クロツラヘラサギは世界的に見れば極東に局地的に生息している鳥ですが、それでも朝鮮半島からベトナムまでの多くの国や地域を渡る渡り鳥です。このような種の保護を進めるためには国内外の多くの団体が協力していくことが不可欠です。日本国内では2002年に「日本クロツラヘラサギネットワーク」が立ち上がり、国外ではバードライフインターナショナルによって保護のための計画の策定をすすめています。このような国内外のネットワークがより活発に活動していくことが今後のクロツラヘラサギの保護の鍵になっていると思います。

6. 引用文献

鄭鐘烈・朴宇日・林秋淵・金徳山. 1996. クロツラヘラサギの繁殖生態. *Strix* 14: 1-10.

Chong, J. & Pak, U. 1999. The breeding sites and distribution of Black-faced Spoonbills in the Democratic People's Republic of Korea (DPRK). *Conservation and research of Black-faced Spoonbills and their habitats.* pp.5-9. Wild Bird Society of Japan (WBSJ).

Chong, J. et al. 1999. Captive breeding of Black-faced Spoonbills. *Conservation and research of Black-faced Spoonbills and their habitats.* pp. 47-53. WBSJ.

榎本佳樹. 1941. 野鳥便覧(下). 日本野鳥の会大阪支部.

長谷川育世. 2005. 衛星データを用いたクロツラヘラサギの生息環境調査. 筑波大環境科学研究科修士論文.

Ueta, M. & Higuchi, H. 2002. Difference in migration pattern between adult and immature birds using satellites. *Auk*, 119:832-835.

Ueta, M. et al. 2002. Discovery of the breeding sites and migration routes of Black-faced Spoonbills *Platalea minor*. *Ibis*, 144:340-343.

Yu, Y.T. 2005. The International Black-faced Spoonbill Census: 21-23 January 2005. The Hong Kong Bird Watching Society.

執筆者

植田睦之



クロツラヘラサギとは、香港からの渡り経路の衛星追跡調査ではじめて関わり、少し遠ざかりつつも、現在も関わっています。はじめて捕獲を試みた年には、うまく捕獲できず、当時世界最軽量の送信機を開発し、提供いただいたNTTの皆さんに合わせる顔がなかったのを覚えています。